



1988年の
宇治田原工場



現在の宇治田原工場

株主通信

vol.29

2016年3月期
2015.4.1~2016.3.31

INSIGHT & INFORMATION

特集：ニチダイ設立50年の歩み	1
社長メッセージ	3
新任執行役員 抱負を語る	6
事業紹介／事業別概況	7
主要連結財務諸表	9
ネットワーク／会社概要	10
株式状況／株主メモ	11



株式会社 ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION
証券コード 6467



**設立
50周年記念号**

ニチダイ設立 50 年の歩み

精密鍛造金型のトップメーカーとして、今年で設立50周年を迎えた株式会社ニチダイ。設立時は22名からスタートした当社ですが、現在は海外の子会社を含めて約650名の社員を擁するまでに成長しました。今回の特集では、ニチダイの50年の歩みをご紹介します。

ネットシェイプ事業

1967

積極採用されだした
超硬で作製する
冷間鍛造用金型

1967年5月1日設立
日本で一番の金型(ダイス)メーカーになることを目指し、株式会社ニチダイが設立されました。



1974

フィルタ
事業開始

冷間鍛造金型製造の工程で使用される真空炉を用いて、ステンレス金網の焼結(拡散接合)パネルの生産を開始し、新たな事業分野に進出しました。



1980

ベベルギアの
金型を開発

複雑形状の駆動系部品(ベベルギア)の金型の開発を進めました。



1978年
売上高10億円突破

フィルタ事業

1988

研究開発用プレス
「HED800」導入

宇治田原工場建築時に研究開発用プレス「HED800」を導入しました。金型生産のみならず、開発・部品量産まで手がけるトータルエンジニアリングサービスの礎を築きました。



1950

1959年 創業者、田中善昭が大阪市北区に田中合金製作所を設立
自家製放電加工機を作製し、会社の礎を築く

自動車産業の歩み

～「自動車工業不要論」が台頭～

1950年 日銀総裁による「自動車工業不要論」の台頭
1955年 国民車育成要綱案による自動車工業の育成
1956年 機械工業振興臨時措置法制定

日系自動車メーカーの世界生産台数*
32千台

1960

1967年
株式会社ニチダイ設立
(寝屋川へ移転)

～起業家精神を発揮して各社が参入～

1960年 マツダ[R360クーペ]、三菱[三菱500]発売
1963年 ホンダ[T360][S500]発売
1964年 東京オリンピックによるオリンピック景気
1966年 トヨタ[カローラ]、日産[ダットサン サニー 1000]、富士重工[スバル1000]発売
1968年 日本のGNPが世界第2位に

482千台

1970

1971年 本社を綴喜郡田辺町(現・京田辺市)に移転
1974年 積層焼結フィルタ製造販売開始
1979年 金型事業の営業所を順次展開

～米国で日本の低燃費小型車の需要が高まる
ネットシェイプ技術の用途も拡大～

1970年 大阪万博開催によるさらなる経済効果
1973年 第1次オイルショック
1979年 第2次オイルショック
ガソリン価格が急騰

5,289千台

1980

1980年 設立当時22名だった社員数が100名を突破
1988年 宇治田原第1工場完成
簡易閉塞ダイセット販売開始

～1980年 日本の自動車生産台数が
世界No.1になる～

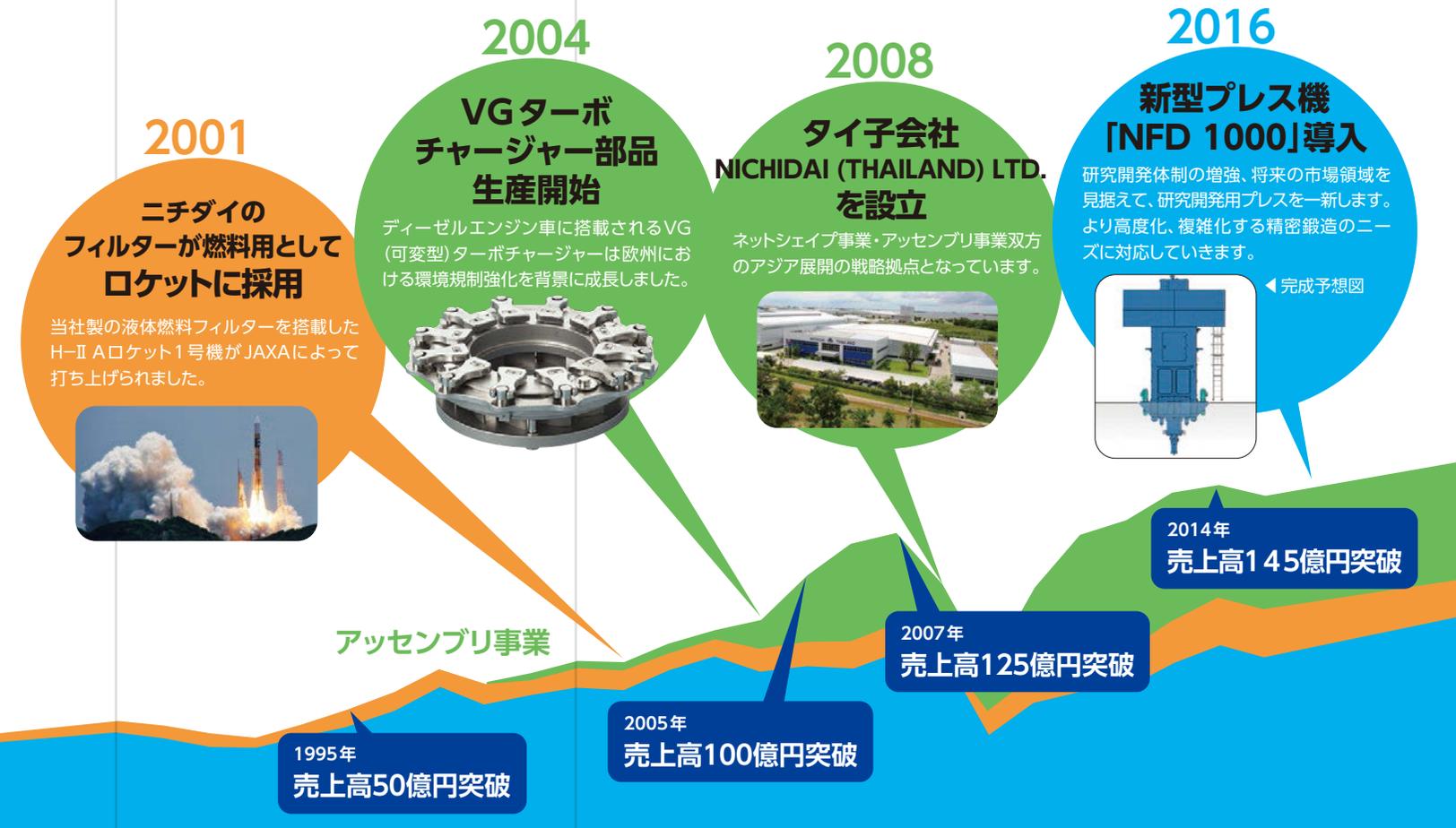
1980年 米国との自動車貿易摩擦
1981年 対米自動車輸出自主規制
1985年 プラザ合意で輸出量減、
現地生産に移行

11,043千台

海外生産台数

国内生産台数

* 出典：一般社団法人日本自動車工業会「日本の自動車工業2016」、「世界自動車統計年報第15集」



ニチダイの現在

2015年度

売上高	14,264百万円
営業利益	828百万円
従業員数	645名
株主数	2,832名

経営理念：3Sの最大限の実現と永続的向上

ニチダイは、顧客満足度(CS)・株主満足度(IS)・社員満足度(ES)を最大限に実現し永続的に向上させていくことで、新たな価値を創造し、社会に貢献できる企業を目指していきます。



経営ビジョン：3Eカンパニーの実現

- Excellent Company** エクセレントカンパニー
「他社ではできない製品と他社の追随を許さない高い技術力」の実現を追求し、スペシャリティとオリジナリティをもったオンリーワン企業を目指します。
- Exciting Company** エキサイティングカンパニー
従業員一人ひとりが互いに尊重し合い、互いの成長と自己実現を果たせる企業を目指します。
- Expand Company** エクスパンドカンパニー
常にパイオニア精神をもって社会のニーズを追求し、パイオニタリティーとパッションをもって健全な成長をつづける企業を目指します。

1990

- 1992年 宇治田原第2工場完成
- 1995年 スクロール部品生産開始
- 1996年 精密鍛造国際学術賞の創設
- 1997年 硬式野球部設立
- 1998年 宇治田原第3工場完成

～大手自動車メーカーの合従連衡
産業の再編と海外生産の拡大～

- 1991年 バブル崩壊～自動車産業に打撃
- 1997年 トヨタがハイブリッド車「プリウス」を発売
- 1998年 米クライスラーと独ダイムラーが合併
- 1999年 日産リバイバルプラン発表

16,752千台

2000～

- 2000年 株式会社店頭公開(JASDAQ 上場)
- 2001年 アッセンブリ事業開始
- 2002年 田中社長から古屋社長に交代
- 2004年 フィルタ事業分社化
(ニチダイフィルタ設立)

～未曾有の不況により先進国の
自動車販売台数が急減、新興市場の台頭～

- 2007年 クライスラーとダイムラーが合併解消
- 2008年 リーマン・ショックが世界同時不況をもたらす
- 2009年 クライスラー、米GMが相次いで経営破綻

16,409千台

- 2004年 宇治田原第4工場完成
- 2007年 タイ・シンタード・メッシュ設立
- 2008年 ニチダイタイランド設立
- 2015年 京田辺工場を再稼働

～自然災害による
サプライチェーンへの影響～

- 2011年 東日本大震災によるサプライチェーンの寸断
タイの洪水によるグローバル生産への影響

2007年
海外生産台数が
国内生産台数を
上回る

2015年
27,373千台



代表取締役社長執行役員

古屋 元伸

記念すべき設立50周年を 新たなスタートの年と捉え、 これからも着実な成長を図ります。

2016年3月期累計期間(2015年4月1日～2016年3月31日。以下、当期)は、ネットシェイプ事業およびアセンブリ事業の不振により、減収減益となりました。

現在推進している中期経営戦略の3年目にあたる次期は、当社設立50周年の記念すべき年となります。これまでのご支援に心より感謝し、株主の皆さまのご期待に添えるよう、新たな成長フェーズに向けた施策に全社一丸となって取り組んでまいります。

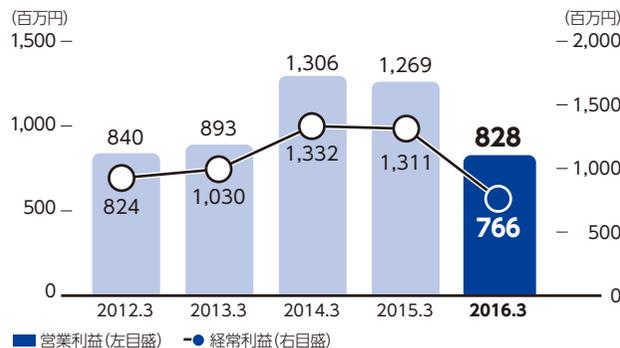
売上高

*百万円未満は切り捨て



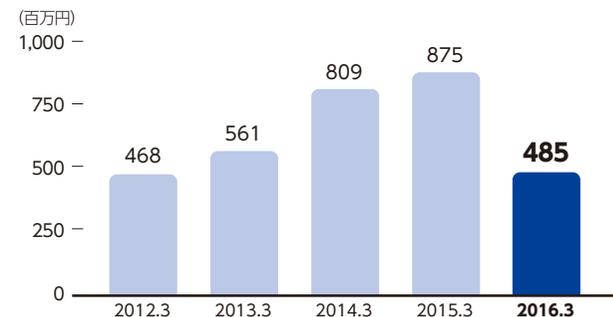
営業利益／経常利益

*百万円未満は切り捨て



親会社株主に帰属する当期純利益

*百万円未満は切り捨て



注) 従来の「当期純利益」は2016年3月期より「親会社株主に帰属する当期純利益」に変更。

【見直しに関する注意事項】 当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見通しおよび計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。

Q 当期の業績について、自動車業界の動向とあわせて教えてください。

A フィルタ事業は好調なもの、他事業の不振により減収減益となりました。

当期の当社グループの主要顧客業界である日系自動車産業は、欧州、北米、中国で販売が好調に推移した一方で、ASEANや日本市場では販売が減少しました。

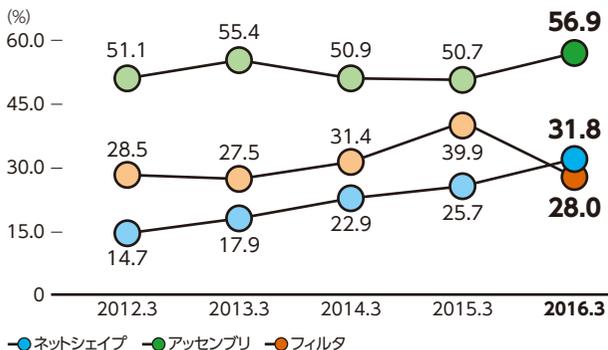
こうした外部環境の影響を受けて、ネットシェイプ事業の金型部門では、国内市場にばらつきがあり売上高が減少しました。

アッセンブリ事業では、モデルチェンジの影響による生産減が予想を上回りました。また、為替換算により売上高は増加したものの、収益性は悪化しました。

フィルタ事業では、大型海水ストレーナーの生産増により、過去最高の売上高となりました。

こうした状況を受けて、当期は売上高142億6千4百万円(前年同期比2.5%減)、営業利益8億2千8百万円(前年同期比34.8%減)、経常利益7億6千6百万円(前年同期比41.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益4億8千5百万円(前年同期比44.5%減)と減収減益となりました。

事業別海外売上高比率



Q 中期経営戦略の進捗状況を教えてください。

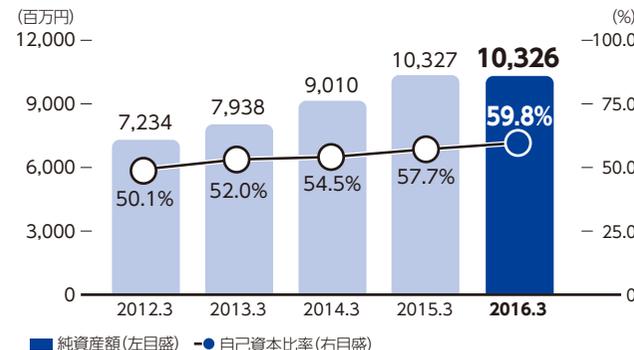
A 新体制への移行、新規プレス機への大型投資などを推進します。

当社グループでは、前期より、4つのテーマからなる中期経営戦略を着実に推進しています。次期は、担当業務ごとに新たに5人の執行役員を選任し、執行役員制度の充実を図ります(新執行役員の紹介は6ページをご覧ください)。

また、軽量化ニーズなどの自動車産業における技術トレンドに対応するため大型プレス機を新規導入し、金型と試作品などを含む製品開発力の強化と、戦略テーマでもある新規量産事業の立ち上げも進めていきます。

アッセンブリ事業については、エンジンのダウンサイジングを背景にターボチャージャーへの需要自体は今後も伸びが予想されます。これを踏まえて、当期に本格稼働したターボチャージャー部品の構成部品内製を進めるなど、効率的な体制を整えます。

純資産額／自己資本比率



中期経営戦略：当期の進捗と次期の方向性

戦略 1 海外展開の強化

ネットシェイプ事業

当期：金型部門において、アジア地域での日系メーカー向けの売上高が増加

次期：東アジア地域における、ローカルメーカーへの拡販および日系メーカー現調化の対応

戦略 2 新規事業の立ち上げ

ネットシェイプ事業

当期：中空工法や厚板増肉技術を用いたローター部品などの開発推進

次期：新規プレス機活用による金型新規品への対応と、量産事業の立ち上げ

戦略 3 QDC改善による製品競争力の強化

アッセンブリ事業

当期：ネットシェイプ技術を活用し、ターボチャージャー部品の構成部品内製を本格化

次期：ターボチャージャー部品の生産数増大に伴う内製生産の効率化と、たな卸資産削減

戦略 4 自動車産業以外の領域拡大

フィルタ事業

当期：船舶用バラスト水処理装置用の大型海水ストレーナーの生産増加

次期：MM(メタルメッシュ)触媒フィルター実用化(二輪車用排ガス処理装置への搭載)への取り組み強化

Q 次期の見通しと事業環境について教えてください。

A 各事業とも当期とほぼ同水準での推移を見込んでいます。

世界的な景気減速懸念や為替動向の先行きなど、事業環境は依然として不透明な状況が続くものと見込まれます。

こうした状況を受けて、ネットシェイプ事業では、金型部門において売上増を見込むものの、精密鍛造品部門の売上減により、全体では減収を予想しています。

アセンブリ事業の売上は、当期並みとなる見通しです。

フィルタ事業では、石油掘削用フィルターの減少により、若干の売上減を見込んでいます。

これらを受けて、次期は、売上高140億円(前年同期比1.9%減)、営業利益8億8千5百万円(前年同期比6.9%増)、経常利益8億7千万円(前年同期比13.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益5億7千5百万円(前年同期比18.4%増)を予想しています。なお、次期より減価償却方法を定率法から定額法へ変更いたします。この変更の影響は、次期の業績予想数値に織り込んでいます。

全社当期実績と次期の見通し

*百万円未満は切り捨て

	2016.3	2017.3	伸び率
売上高	14,264	14,000	△1.9%
営業利益	828	885	6.9%
経常利益	766	870	13.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	485	575	18.4%

Q 次期の配当について教えてください。

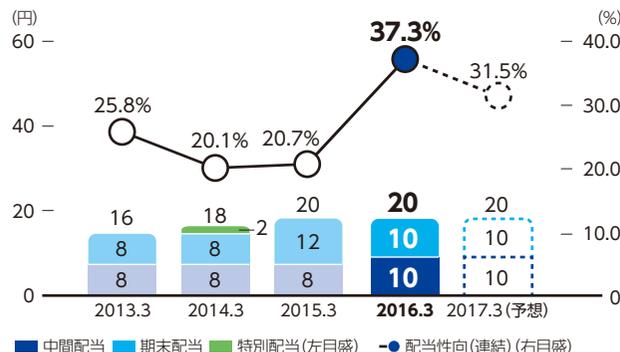
A 中間10円、期末10円の年間20円を予定しています。

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策と位置づけ、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を基本方針としています。

当期の期末配当につきましては、当初計画どおり10円とさせていただきます。また、次期の配当につきましては、次期の業績予想などを考慮し、中間10円、期末10円の年間20円を予定しています。

当社を取り巻く経営環境は不確実さが残るものの、自動車産業は今後も成長が見込まれます。変化する状況に、迅速に対応し適切な経営戦略を進めることで、堅実な成長を目指します。

1株当たり配当金/配当性向(連結)



TOPICS

自動車産業のいま、これから

成熟化が進む国内市場では、販売台数が停滞するものの、海外市場は今後も成長し、数年後には1億台まで届くとの予想も出ています。

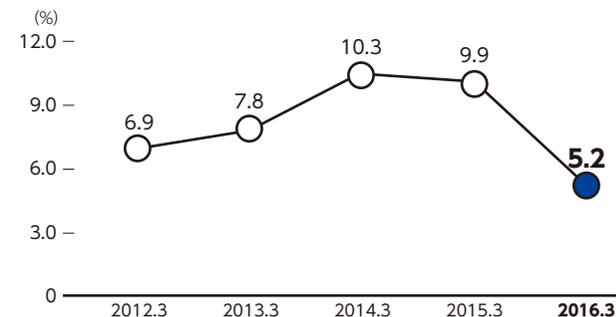
一方では、ガソリンエンジン車から電気自動車への転換に代表されるパワートレインの変化や自動運転技術の発展などの技術革新の進行に加え、市場の新興国シフトも相まって、産業構造の大規模な変化が予想されます。

世界各地域別 販売台数の予測 (万台)



出典：株式会社アイアールシー「世界自動車産業の生産・販売台数予測調査 2016年版」

ROE(自己資本利益率)



これからの 50年に向けて

当社は50周年を機に、次の50年を見据えた組織変更と人事異動を行いました。その狙いは、各事業の有機的な統合を高めることであり、マネジメントに新たな力を取り込むことにあります。新たに選任した5人の執行役員は、各事業本部のトップとして、今後、各事業を牽引してまいります。各新任執行役員の決意と、それぞれが考える各事業本部の今後の方向性をご紹介します。



ネットシェイプ事業
統括本部
営業本部 本部長 兼
海外営業部 部長
雨崎 裕司



一步先に行く営業で、海外売上30億円を達成します

私は、ずっと営業畑で歩んできました。当社のような受注生産の産業では、開発の受託までを含めた技術営業、提案型営業の充実が受注獲得のカギとなります。その意味では、主要顧客である自動車メーカーの動きに即応することが永遠のテーマです。今後の自動車市場はASEANやインドが主戦場であり、一層のグローバル展開の推進が必要です。EVやPHVへのシフトにも、当社3事業の相乗効果を活かした対応を目指します。

当社の成長の糧となる技術力育成に努めます

私は、当社の根幹である金型の設計に28年間取り組んできました。この間、当社の技術力は飛躍的に進化しました。今後の課題は、蓄積されたノウハウを体系化して、次代を担う世代に確実に引き継ぎ、さらなる展開を図ることです。培ったスキルを可視化することで、提案型設計ができる若手技術者を育成し、ナンバーワン・オンリーワンの技術をもつ「技術のニチダイ」の持続的な発展を目指します。



ネットシェイプ事業
統括本部
技術・開発本部
本部長
清池 薫

ネットシェイプ事業
統括本部
生産本部 本部長
伊藤 正人



当社の原点である金型でトップを走り続けます

私は入社以来32年間、金型製造一筋でやってきました。2013年にタイで金型製造が始まってからは、現地での技術指導を担当してきました。創業以来、当社は精密鍛造金型の世界で、最先端の技術力を常に維持してきました。これが当社の強みであり、今後の成長の原動力でもあります。今後はタイを拠点とする海外展開を視野に入れる一方で、効率化を徹底してコストダウンを図り、利益体質の強化に取り組めます。

アッセンブリ事業の採算向上に取り組めます

私は、2008年からタイでアッセンブリ事業の立ち上げに携わりました。その後2012年からの現地工場増築を統括し、引き続きスクロール鍛造品、金型生産、真空熱処理の各事業立ち上げを指揮してきました。今後、アッセンブリ事業においては、独自技術の開発と生産現場のスリム化に取り組んで事業をより強靱なものとし、NICHIDAI (THAILAND) LTD.においては、グローバルな受注体制構築を目指します。



アッセンブリ事業本部
本部長 兼
NICHIDAI (THAILAND)
LTD. 社長
井上 悦男

管理統括本部
管理本部 管理本部長
兼 経理部 部長
山根 隆義



常に先を見据えて強靱な組織づくりに取り組めます

私は、13年前に経理課長として入社以来、筋肉質な財務体質づくりに取り組んできました。そのかいあって、これまでにリーマン・ショックと東日本大震災の2度の危機に遭遇しましたが、何とか凌ぎきることができました。今後は各事業部ごとの体質強化に、きめ細かく取り組みます。同時に管理面では、社員のモチベーションアップを図り、先を見据えて動く社風を育成するため、社内提案制度の充実に取り組めます。

ネットシェイプ事業

自動車部品を一発のプレスで成形できる量産用**金型**を生産
また、独自の開発支援・生産管理システムで最適な**鍛造**技術をご提案

金型とは

金型とは、材料の変形性・流動性の性質を利用して、製品を成形加工する金属製の型です。
自動車・家電製品など、同じモノを大量生産する道具として広く産業界で使われています。

鍛造とは

鍛造とは、金属の塊にハンマー・プレス機などで高い圧力を加えて変形させる加工法です。
言葉のとおり、金属を「鍛えて造る」加工法で、それによって成形された製品は、「切削加工」「鋳造」といった他の加工法に比べ、強くなるというメリットがあります。

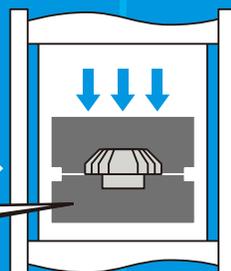
事業の紹介

金型部門

ネットシェイプ用の精密鍛造金型を設計・製造生産・開発から部品製造までのトータルエンジニアリングにてご提供

ニチダイの金型のポイント
一発のプレスで切削・加熱することなく複雑な形状に加工

材料



精密鍛造品

精密鍛造品部門

金型技術を活かした付加価値の高い部品をご提供

ニチダイの鍛造品のポイント

- 高精度: 10μm単位の精密加工が可能
- 高強度: 材料繊維が切断されず高い強度を確保
- 省資源: 使用する金属を1/2から1/3に削減できる



主力製品
カーエアコン用
スクロール部品

国内の全自動車メーカー系列企業が当社の金型を使って部品を製造
海外自動車メーカーとの取引も増加

自動車部品メーカー

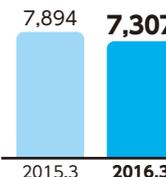
トランスミッション
関連部品

エンジン関連部品

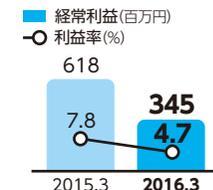
駆動関連部品



売上高 (百万円)



経常利益・利益率



*百万円未満は切り捨て

通期の概況

金型部門においては、海外市場での売上高が増加したものの、国内市場では需要のばらつきにより売上減となりました。精密鍛造品部門では、国外生産の増加により、国内生産の減少をカバーし、前期とほぼ同水準の売上高で推移しました。これらの結果、売上高は73億7百万円(前年同期比7.4%減)となりました。

利益面においては、金型部門の売上高減少が響き、経常利益3億4千5百万円(前年同期比44.1%減)となりました。

次期の見通し

金型部門では、新規品受注や海外向け拡販により、売上増を見込んでいます。精密鍛造品部門では、稼働率は当期と同じながら、アッセンブリ事業向け内製生産増加により会計上の売上高は減少します。その結果、売上高71億円(前年同期比2.8%減)を見込んでいます。

アッセンブリ事業

独自技術により**VGターボチャージャー部品**を組み立て

VGターボチャージャーとは

エンジンから排出された排気ガスのエネルギーを利用し、風車のような羽根(タービン)を回すことによって同軸上の風車(コンプレッサー)を回し、空気を圧縮して強制的にエンジンへ空気を送り込み高出力を得る装置です。

事業の紹介

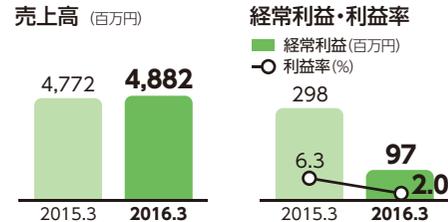
主にディーゼルエンジン車用**VGターボチャージャー部品**の組み立て



VGターボチャージャーのポイント

- 排ガス削減: 環境負荷物質削減に貢献
- 燃費向上: 燃費を改善することにより、CO₂排出量を削減できる

全世界の自動車メーカー



*百万円未満は切り捨て

通期の概況

モデルチェンジに伴う、旧型モデル向けVGターボチャージャー部品の生産減が予想を上回ったことに加えて、新規モデルが立ち上がったものの予想どおりには伸長しませんでした。

円・パーツ間の為替レート変動の影響により、売上高は48億8千2百万円(前年同期比2.3%増)となりましたが、収益性が悪化し経常利益は9千7百万円(前年同期比67.2%減)となりました。

次期の見通し

ディーゼルエンジン車向けの部品は、新規モデル向けが増加してくるものの、全体としてはまだ減少する見込みです。一方ではガソリンエンジン車向けのターボチャージャー部品の売上げが見込まれます。

その結果、売上高49億円(前年同期比0.4%増)を見込んでいます。

フィルタ事業

独自の**拡散接合技術**により産業用フィルターを生産

拡散接合とは

素材を加圧し密着させることで、金属組織内の各接点間で原子拡散現象が発生します。これを融点以下の温度で一定時間保持すると接点間をまたいで結晶が形成され、ステンレス素材を一体化します。

事業の紹介

各種メーカーで使用される産業用の**積層焼結フィルター**を生産
フィルターの洗浄・再生サービスも実施



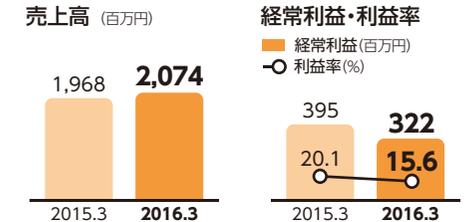
ニチダイのフィルターのポイント

- リサイクル可能: 洗浄して何度でも再利用が可能
- 高強度: 機械的強度、耐久性、耐熱性に優れている



各種メーカー

(ガス、石油、化学、繊維、食品、航空宇宙産業など)



*百万円未満は切り捨て

通期の概況

タイ子会社で生産する石油掘削用フィルターや輸出用フィルター製品の減少により海外売上高は減少しましたが、船舶用バラスト水処理装置に搭載される大型海水ストレーナーが順調に推移し、国内売上高が増加しました。

その結果、売上高20億7千4百万円(前年同期比5.4%増)と過去最高を記録しました。経常利益に関しては、量産品の増加など製品ミックスが変わったことなどが影響し、3億2千2百万円(前年同期比18.3%減)となりました。

次期の見通し

大型海水ストレーナーの売上が安定的に推移するなど国内は前年とほぼ同水準の売上になることが見込まれますが、海外では石油掘削用フィルターの減少が見込まれます。

その結果、売上高は20億円(前年同期比3.6%減)を見込んでいます。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部 科目	前連結会計 年度末 2015年 3月31日現在	当連結会計 年度末 2016年 3月31日現在
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	2,424	2,073
受取手形及び売掛金	3,678	3,798
たな卸資産	2,556	2,523
その他	143	138
貸倒引当金	△ 1	△ 1
流動資産合計	8,800	8,532
固定資産		
有形固定資産	7,188	6,844
無形固定資産	111	95
投資その他の資産	231	252
固定資産合計	7,531	7,192
資産合計	16,331	15,725

*百万円未満は切り捨て

Check Point

- ① 為替換算調整勘定
前年と比較し、円高になった影響
- ② 営業外収益
前期為替差益 62 百万円
- ③ 営業外費用
当期為替差損 50 百万円
- ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益
前期 1,293 百万円
当期 740 百万円

負債及び純資産の部

(単位:百万円)

負債及び純資産の部 科目	前連結会計 年度末 2015年 3月31日現在	当連結会計 年度末 2016年 3月31日現在
(負債の部)		
流動負債		
買掛金	1,622	1,318
短期借入金	1,897	1,575
未払法人税等	114	71
賞与引当金	141	147
その他	764	876
流動負債合計	4,540	3,988
固定負債		
長期借入金	943	935
退職給付に係る負債	—	120
その他	521	354
固定負債合計	1,464	1,410
負債合計	6,004	5,399
(純資産の部)		
資本金	1,429	1,429
資本剰余金	1,192	1,192
利益剰余金	6,395	6,681
① 為替換算調整勘定	427	227
その他	△ 18	△ 133
非支配株主持分	900	927
純資産合計	10,327	10,326
負債純資産合計	16,331	15,725

*百万円未満は切り捨て

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計 年度 2014年4月1日から 2015年3月31日まで	当連結会計 年度 2015年4月1日から 2016年3月31日まで
売上高	14,635	14,264
売上原価	11,246	11,341
売上総利益	3,388	2,923
販売費及び一般管理費	2,118	2,094
営業利益	1,269	828
② 営業外収益	94	33
③ 営業外費用	53	95
経常利益	1,311	766
特別利益	5	3
特別損失	23	29
税金等調整前当期純利益	1,293	740
法人税、住民税及び事業税	217	174
法人税等調整額	113	△ 23
当期純利益	961	589
非支配株主に帰属する 当期純利益	85	103
親会社株主に帰属する 当期純利益	875	485

*百万円未満は切り捨て

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計 年度 2014年4月1日から 2015年3月31日まで	当連結会計 年度 2015年4月1日から 2016年3月31日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,475	1,074
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 926	△ 692
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 174	△ 664
現金及び現金同等物に係る換算差額	111	△ 69
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	486	△ 351
現金及び現金同等物の期首残高	1,830	2,316
現金及び現金同等物の期末残高	2,316	1,964

*百万円未満は切り捨て

国内の主要な事業所

(2016年3月31日現在)

本 社

京都府京田辺市新北町田 13

京田辺工場

京都府京田辺市新北町田 13

宇治田原工場

京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷 14

熊谷営業所

埼玉県熊谷市桜木町 2-88

浜松営業所

浜松市中区高丘西 3-12-3 1階

名古屋営業所

名古屋市名東区高社 2-127 1F

京都営業所

京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷 14

岡山営業所

岡山市北区辰巳 22-103 TCKビル

熊本営業所

熊本市東区長嶺南 1-1-7



本社



京田辺工場



宇治田原工場



関連会社

(2016年3月31日現在)

- ① ニチダイフィルタ株式会社
京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷 14
- ② NICHIDAI (THAILAND) LTD.
Amata Nakorn Industrial Estate Phase 8, 700/882 Moo 5, Tb. Nhongkakha Ap. Phanthong Chonburi 20160 Thailand
- ③ THAI SINTERED MESH CO., LTD.
Saha Group Industrial Park, 99/8 Moo 5, Tambol Pasak, Amphur Muang Lamphun 51000 Thailand
- ④ NICHIDAI U.S.A. CORPORATION
15630 E State Route 12 Unit 4, Findlay, OH, 45840-9743, USA
- ⑤ NICHIDAI ASIA CO., LTD.
Amata Nakorn Industrial Estate Phase 8, 700/882 Moo 5, Tb. Nhongkakha Ap. Phanthong Chonburi 20160 Thailand

● ネットシェイプ事業 ● アssenブリ事業 ● フィルタ事業

会社概要

(2016年3月31日現在)

社名 (英文表記)	株式会社ニチダイ NICHIDAI CORPORATION
証券コード	6467
本社所在地	京都府京田辺市新北町田 13
創業年月日	1959年5月5日
設立年月日	1967年5月1日
資本金	14億2,992万円
従業員数	371名(単独) 645名(連結)

役員

(2016年6月23日現在)

代表取締役社長執行役員	古屋 元伸	
取締役執行役員	瀬川 秀実	ネットシェイプ事業統括本部長 NICHIDAI ASIA CO., LTD. 社長 NICHIDAI U.S.A. CORPORATION 社長
取締役執行役員	辻 寛和	管理統括本部長、経営企画室長
取締役	岡 廣次郎	監査等委員(常勤)
社外取締役	西野 吉隆	監査等委員
社外取締役	真田 尚美	監査等委員

当社ホームページのご紹介

ニチダイへの理解を深めていただくために、ホームページをご活用ください。



<http://www.nichidai.jp/>

株式の状況

(2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	15,500,000株
発行済株式の総数	9,053,300株
単元株式数	100株
株主数	2,832名

大株主

(2016年3月31日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
有限会社ジャスト	885,600	9.78%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	518,700	5.72%
田中克尚	497,688	5.49%
ニチダイ従業員持株会	494,844	5.46%
中棹知子	282,600	3.12%
古屋啓子	272,600	3.01%
株式会社三菱東京UFJ銀行	217,600	2.40%
木村文彦	190,000	2.09%
京都中央信用金庫	180,000	1.98%
大阪中小企業投資育成株式会社	174,000	1.92%

所有者別分布

(2016年3月31日現在)



所有者別株式数分布

(2016年3月31日現在)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 基準日 期末 3月31日
 中間 9月30日
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 TEL.0120-094-777(通話料無料)
 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
 公告方法 電子公告
 当社ホームページ(<http://www.nichidai.jp/>)にて掲載
 単元株式数 100株

ご注意

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまのご満足を追求し、今後も業績情報の開示の充実に努めてまいります。この株主通信に対するご感想、ご意見をお寄せください。つきましては同封のアンケートハガキにご記入、ご投函いただきますようお願いいたします。
 今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

株主さま向けアンケート結果のお知らせ

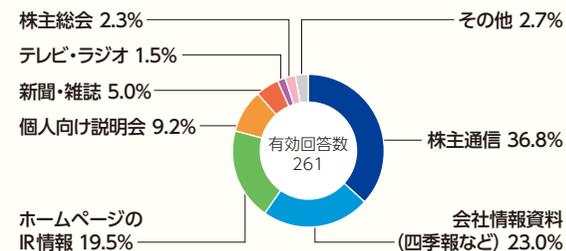
2015年12月に発行した株主通信(Vol.28)で実施したアンケートに対して、多くの株主さまからご回答、ご意見をいただきました。心から御礼申し上げます。お寄せいただきました貴重なご回答、ご意見は今後の事業活動、IR活動の参考にさせていただきます。下記に、アンケート結果のうち、いくつかをご紹介します。

当社についてもっと知りたい情報



株主通信を通じて知りたい情報で最も多かったのは「製品情報」でした。新製品の開発状況や技術に対する関心が高まっています。

当社の充実すべきIR活動



充実すべきIR活動のトップは「株主通信」について「会社情報資料」「ホームページのIR情報」と続きました。株主さまのご要望にお応えできるよう、情報発信を積極的に取り組んでまいります。

その他のご意見

- 技術力をさらに向上し、新製品の開発および業績アップにつなげてほしい。
- 日常生活のどのような部分にニチダイの製品が使われているのを知りたい。
- 今後も着実に業績を伸ばし、ROEや配当性向の向上に努力してほしい。



株式会社 ニチダイ
 NICHIDAI CORPORATION
 本社 TEL. (0774) 62-3481 (代)